

Gen00364 「標準アジア人」検討会議

#0000 sci1260 8810160025

IAEAの放射線防護プロジェクトの一環として  
「標準アジア人」検討会議 Coordinated Research Program  
“Compilation of Reference Asian Man”

が、10月17-21日、水戸市で開催されます。

IAEA主催で、アジア12ヶ国（日本、中国、インド、インドネシア、  
バングラデッシュ、スリランカ、タイ、ベトナムなど）の代表が参加し、  
放射線被曝時の生体への影響評価の基本となる、解剖学的、生物学的な  
データを、「アジア人」について考えるのが目的だそうです。

報道があるか、注目しましょう。

----- (以下駄文) -----

人種によって生理学的な違いがあるのは、たとえば「平均として」  
欧米人がアルデヒドの代謝が早く、日本人は遅く、そこでアルコールの  
処理能力の差があるなんて例からも否定できません。

でも一方で、個体差もきわめて大きいものです。

放射線障害、とくに体内被曝量の評価には、生体の各種データが必要  
であるでしょうし、その点で上記会議について文句をいう筋合いはない  
んですが、しかし、「リファレンスとなるアジア男」とは... 絶句。

こうした「めやす」が、行政サイドにとっては「基準」となり、やがて  
「安全線量」というようなものに変化していったら、こわいなあ。

個人差の幅を当然、各国の国民ごとにレンジ表示することになるので  
しょうが。さもなきや、標準以下は切捨て、という優生学でっせ。

標準練馬区民のムカシトカゲ